

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年8月30日現在

## 今月の重点活動

### ■いちご 就農応援隊結団式で新規就農者が将来の夢を発表

8月23日、ぎふ清流文化プラザにおいて、岐阜就農応援隊結団式が開催され、応援隊員、新規就農者、農業担い手リーダーなど約330名が出席し、盛大に執り行われた。

結団式後の岐阜地域農業担い手情報交換会では、岐阜市のいちご生産者が新規就農者を代表して、新規就農の事例発表を行った。JA全農岐阜のいちご新規就農者研修所での思い出や就農した後に直面した課題とその対応、また、自らの夢や産地としての将来ビジョンなどについて、力強い意欲表明があった。

農業普及課では、今回の事例発表に向け、発表内容の聞き取りや資料作成などの支援を行っており、今後も、関係機関と連携し、新規就農者の支援を継続していく予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【事例発表の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー 複合経営を行う水田農業経営体の自家育苗順調

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会員95戸のうち、13戸が水田農業経営体であり、そのうち7戸が水稻育苗ハウスを活用した自家育苗に取り組んでおり、苗の生産コスト低減が期待される。

栽培当初は、生育や天候を考慮しながらの水管理に苦戦したが、現在では順調に生育している。

農業普及課では、温湿度計を確認して水管理するなど、かん水量の判断方法や液肥のタイミング等について指導を行っている。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【温湿度計を確認】

### ■アスパラガス 高温対策用の遮光資材を設置

近年、夏期の高温により、アスパラガスが曲がったり、はじけたりすることが多くなっており、収量や品質の低下を招いている。高温障害を回避する対策として、8月1日、羽島市内のアスパラガス生産ハウスにおいて、JAぎふと農業普及課の担当者が、遮光資材（遮光率30%）を設置した。

今後、農業普及課では、遮光による温度変化や高温障害芽の発生率を調査する予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【遮光資材を設置】

## 多様な担い手づくり

### ■担い手農業女性 わかばマーク農業女性研修会を開催

8月3日、農業普及課は、農家に嫁いできて間もない女性間のネットワークづくりを目的とした研修会を、女性農業経営アドバイザーと開催した。

「みたけ華ずしの会」の堀田会長を招き、巻き寿司作りの実習とともに、巻き寿司を通した親から子への食文化伝承、話題作りにより御嵩町の宣伝を目指している旨の講演を頂いた。

参加者からは、「意外に簡単なので家でも作ってみる」「講演を聞いて元気が出た」などの意見が聞かれた。

農業普及課では、今後も研修内容を変えながら、ネットワークづくりを進めることとしている。

(地域支援第二係・魚住雅信)



【会話も楽しい調理実習】

## 売れるブランドづくり

### ■小麦 平成29年産小麦の栽培検討会を開催

8月18日、農協会館において、JA全農岐阜（営農対策課、肥料農薬課）、JAぎふ（米穀課、資材課）、資材メーカー、農業技術センター、農業普及課により、小麦タマイズミ栽培暦検討会を実施した。

平成28年産で行った肥料試験の結果を報告し、平成29年産の栽培暦に新たに全量基肥体系を追加するとともに、難防除雑草イタリアンライグラスに対する除草剤体系を加えることとした。

今後は、栽培研修会を実施して生産者に技術指導し、小麦の高位安定生産を図る予定である。（地域支援第三係・岡田隆史）



【検討会の様子】

### ■いちご 栽培講習会を実施

8月17日、JAぎふ糸貫支店において、JAぎふ本巣地域いちご部会の栽培講習会が開催された。

JAぎふから、栽培履歴記帳の徹底について説明があり、農業普及課からは、平成28年産防除暦の変更点と今後の栽培管理について説明した。特に、防除暦に新しく導入したモメントフロアブルについては、防除効果を上げるための使用上の注意事項を指導した。また、定植前まで苗の防除を徹底すること、花芽分化を確認して適期に定植することなどについても指導した。

今後、農業普及課では、生産者への巡回指導や栽培研修会などを通じて、平成28年産の安定生産を支援していく予定である。（園芸産地支援第一係・小島康平）



【栽培講習会の様子】

### ■岐阜地域直売所組織 農産物直売所研修会を開催

8月2日、JAぎふアグリパークにおいて、岐阜地域朝市夜市連合に加入する農産物直売組織を主な対象に、研修会を開催した。

タキイ種苗株式会社から、直売所向け野菜の紹介と栽培のポイントについて、先進直売所の事例発表として、可児市の湯の華市場店長から、お客さんの動線を考えた売り場づくりや年間及び1日の品揃えに対する取り組みについて講演して頂いた。

農業普及課からは、農薬の希釈倍数や使用量の計算を中心に、農薬の適正使用について説明した。参加者アンケートでは、「参考になった」「加工品についてももっと聞きたい」「農薬について勉強したい」などの意見があった。

（地域支援第三係・小椋正大）



【研修会の様子】

## 住みよい農村づくり

### ■岐阜市学校給食 地元産農産物の利用に関する意見交換会開催

8月19日、(公財)岐阜市学校給食会、岐阜市教育委員会学校保健課、学校栄養教諭、JAぎふ園芸畜産課、農業普及課の計10名が参加し、岐阜市学校給食における地元産農産物の利用に関する意見交換会を開催した。

岐阜市学校給食では、1日当たり3万6千食もの給食が供され、その材料の約20%に県・市産農産物が利用されているが、今後も積極的に活用していきたいとの意向を受け、産地等関係機関との情報交換の場の設置に至った。

情報交換の結果、岐阜市産ブロッコリーの安定供給、新たに根尾産にんにくを活用することや、各務原市産にんじんの積極的な活用などが決まった。

また、今後も毎年、夏休み期間である8月に、意見交換会を開催することとなった。

（地域支援第一係・稲葉千佳、丹羽宣子）



【意見交換会の様子】